

例 言

1. 本書は、袖ヶ浦市飯富 3,544 番 6 他に所在する山野貝塚について、これまでの調査成果を総括した調査報告書である。
2. 山野貝塚における発掘調査は 7 次に亘り実施されている。各調査の調査期間及び調査機関等については、下記のとおりである。

発掘調査

- 第 1 次調査 期間：昭和 48 年 5 月 10 日～昭和 48 年 9 月 25 日 面積：約 500 m²
所在地：千葉県袖ヶ浦市飯富字山野 3,544 番 6
調査機関：財団法人千葉県都市公社文化財調査事務所 調査担当者：野村幸希
- 第 2 次調査 期間：平成 4 年 10 月 1 日～平成 4 年 10 月 30 日 面積：200 m²
所在地：千葉県袖ヶ浦市飯富 3,545 番 5 他
調査機関：財団法人千葉県文化財センター 調査担当者：上守秀明
- 第 3 次調査 期間：平成 24 年 1 月 18 日～平成 24 年 1 月 30 日 面積：95.4 / 6,673 m²
所在地：千葉県袖ヶ浦市飯富 3,521 番 2 他
調査機関：袖ヶ浦市教育委員会 調査担当者：西原崇浩
- 第 4 次調査 期間：平成 24 年 7 月 17 日～平成 24 年 7 月 30 日 面積：30 / 1,685 m²
所在地：千葉県袖ヶ浦市飯富 3,516 番 21 他
調査機関：袖ヶ浦市教育委員会 調査担当者：田中大介
- 第 5 次調査 期間：平成 25 年 1 月 28 日～平成 25 年 2 月 8 日 面積：18.7 / 179 m²
所在地：千葉県袖ヶ浦市飯富 3,544 番 17
調査機関：袖ヶ浦市教育委員会 調査担当者：田中大介
- 第 6 次調査 期間：平成 26 年 2 月 12 日～平成 26 年 2 月 21 日 面積：36 / 1,666 m²
所在地：千葉県袖ヶ浦市飯富 3,550 番 3 他
調査機関：袖ヶ浦市教育委員会 調査担当者：田中大介
- 第 7 次調査 期間：平成 26 年 12 月 15 日～平成 26 年 12 月 25 日 面積：14 / 1,553 m² 下層 4 / 1,553 m²
所在地：千葉県袖ヶ浦市飯富 3,516 番 8 他
調査機関：袖ヶ浦市教育委員会 調査担当者：田中大介

整理作業・報告書刊行

期間：平成 25 年度～平成 27 年度
調査機関：袖ヶ浦市教育委員会
担当者：田中大介・西原崇浩

3. 本書で使用した地形図は下記の通りである。
第 4 図 国土地理院発行 25,000 分の 1 地形図「姉崎」・「上総横田」・「奈良輪」・「木更津」・「久留里」・「鹿野山」
第 5 図 袖ヶ浦市発行 2,500 分の 1 地形図 NO. 18
4. 原稿執筆者は以下のとおりである。なお、石器石材鑑定と動物遺体の分析及び各原稿執筆については外部の方々に依頼し、玉稿を賜った。
第 1 章第 1、2 節 田中大介
第 1 章第 3、4 節 西原崇浩
第 2 章第 1、2、4 節 田中大介
第 2 章第 3 節 西原崇浩

第3章第1、2節、第3節1～3、5、6 田中大介

第3章第3節4 石器石材分析 柴田 徹（有限会社考古石材研究所）

第4章第1節、2節1～3 田中大介

第4章第2節4 微小貝類遺体 黒住耐二（千葉県立中央博物館）

第4章第3節1 分析資料と分析方法の概要、同2 脊椎動物全体の概要 樋泉岳二（早稲田大学）

第4章第3節3 魚類・両生類・爬虫類、同5 哺乳類 樋泉岳二、服部智至（（公財）千葉県教育振興財団）、小川慶一郎（東京学芸大学）

第4章第3節4 鳥類 江田真毅（北海道大学総合博物館）

第4章第4節 人骨の分析 佐宗亜衣子・諏訪 元（東京大学総合研究博物館）

第4章第5節 山野貝塚から出土した縄文時代人骨の同位体分析と放射性炭素年代 米田 穰・尾崎大真・大森貴之（東京大学総合研究博物館）、小林紘一・伊藤 茂（株式会社パレオ・ラボ）

第5章 田中大介

5. 本書に掲載した写真は、遺構については各調査担当者が、遺物については、鳥骨は江田、人骨は佐宗、それ以外は西原が撮影した。
6. 今回の発掘調査に伴う出土遺物・記録類等は袖ヶ浦市教育委員会、東京大学総合研究博物館で保管している。
7. 第3章第3節2土製品（1）土偶・土版の第75図1・6～9、第76図11・13～16、第77図19・20・22図の実測図は山本哲也氏が実測し、平成元年（1989）に（財）君津郡市文化財センターが刊行した『君津郡市文化財センター研究紀要』Ⅲに掲載した実測図の掲載許可をいただき転載した。
8. 第3章第3節3石器・石製品の第94図62独鈷石の実測図は、小澤清男氏が実測し、平成23年（2011）に千葉市立加曽利貝塚博物館が刊行した『貝塚博物館紀要』第38号に掲載した実測図の掲載許可をいただき転載した。
9. 発掘調査から報告書刊行に至るまで、文化庁、千葉県教育委員会、（公財）千葉県教育振興財団、東京大学総合研究博物館の各機関、地権者の方々をはじめ、阿部昭典、今村啓爾、江田真毅、岡本東三、小川慶一郎、小澤清男、梶原正方、黒住耐二、坂本 匠、佐宗亜衣子、笹生 衛、柴田 徹、鈴木仲秋、諏訪 元、高橋 克、千葉 豊、樋泉岳二、成田篤彦、西野雅人、日塔和彦、服部智至、村田六郎太、山田常雄、山本哲也、米田 穰の各氏には多大なるご指導、ご協力を頂いた。記して謝意を表したい（個人五十音順、敬称略）。

凡 例

1. 挿図の縮尺は各図に明記した通りである。方位は、第1次調査については磁北、第2次調査以降については座標北とした。
2. 検出された遺構については以下のように略記号に数値を振った。
住居－S I 土坑－S K
なお、住居については、住居跡、住居址、竪穴住居などと一般に表記されるが、本報告では「住居」に統一した。また、第1次調査の北東側斜面で検出されたローム質黄褐色土については、人為的に移動された土層と考え、本報告では「盛土遺構」と表記する。
3. 遺構平面図および土層断面図中の「K」は攪乱を示す。
4. 遺構実測図中のドットは遺物の出土位置を示し、その内容は各図の凡例のとおりである。
5. 遺物実測図脇の数値は出土グリッド、取り上げ層位、本文層位を示す。
6. 属性表の計測値の（ ）付きの数値は残存値、推定値を示す。
7. 本報告に掲載した表については、附属のCD-Rに収録した。また、型式、種類別土器重量表、土器観察表、貝類同定結果、貝類計測値データについては、付表としてCD-Rのみに収録した。
なお、CD-R収録内容と印刷内容に相異があった場合、印刷内容を優先する。